

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直し委員会 第2回発展部会 委員意見要旨

No.	項目	発言要旨
1	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達自身が、自ら困りごとを解決する経験が重要であり、その機会をつくる必要がある ・その素地をつくり、自ら学びたい、やりたいというように気づいてもらうことがポイント ・キャリア教育という器だけ作っても難しい ・人材育成には、低年齢のうちからしっかり社会で支えていかなければならない
2		<ul style="list-style-type: none"> ・書道や絵画などのコンテストを運営する組織の状況は厳しくなっており、縮小傾向にある ・子ども達の芸術文化に係る創造活動は重要であり、小さな頃から活動できる仕組みが必要であり、それが次の人材育成にも繋がる ・そのための資金、人材の投入が課題
3		<ul style="list-style-type: none"> ・近年、近所での挨拶ができていない人が多い ・近隣が声を掛け合う環境が大事 ・大人が声を掛け合うのを子どもは見えており、その姿が子ども達を笑顔にし、まちが明るくなる ・学校や老人ホームなど単独の取組とするのではなく、行政として総合的な取組として欲しい ・日頃からどう生きていくとどういう将来になるか、公民館等で話し合う場があるとよい
4		<ul style="list-style-type: none"> ・医療関係の仕事のキャンペーンをすると子ども達は来ない、マッチングがうまくいっていない ・成績のよい子どもが選ぶような職業ばかり紹介していることが多い ・仕事とは、①食べる、生きるため、②誇りのため、ということを学校現場で教えるべき ・石垣の補修、樹の管理など、失われる技術なども含め、自分の得意だったり、好きなキャリアを身につけていくことが重要
5		<ul style="list-style-type: none"> ・介護人材が不足している ・県として、外国人材を雇用に繋げていくことができないか
6		<ul style="list-style-type: none"> ・近年の若者は、校歌を覚えていない人が多く、同窓の集まりもなくなっている ・以前は、教育現場で地域愛が培われていた ・地域愛を深めるためには、学校で教える機会が必要ではないか
7		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃の多様な実体験が重要 ・小学校の際の社会見学の実験が、今の業務の中でも非常に影響していると感じる
8		<ul style="list-style-type: none"> ・リカレント教育も重要 ・社会が変わっていく中、職業を変えることも増えてくるが、大人になっても、どんな世代でも学び、働き、暮らせる大分県であってほしい

No.	項目	発言要旨
9	人材確保	<ul style="list-style-type: none"> ・工業系高校でもインターンシップを積極的に進めるとともに、学科によるミスマッチを拾える仕組みが必要 ・普通科高校もメカニックになりたい人もいるため、将来の可能性を拾い上げていく方が必要ではないか ・保護者に地元企業の魅力を知ってもらう機会が必要
10		<ul style="list-style-type: none"> ・高校の進路指導担当に対する、企業説明会ができるとうい ・個別の説明ではなかなか時間を取ってもらえない
11		<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生に仕事の種類についてアンケートをとってみてはどうか ・仕事に対する視野を広げるため、お仕事博物館や、見て体験できるイベント等を実施など、子どもにとって憧れが生まれるようなものがあるとよいのではないか
12		<ul style="list-style-type: none"> ・親の仕事の話を子どもにもっとすべき ・小さい頃から色々な職業を知るために、多くのシチュエーションが必要 ・そのための連携した方式のようなものがあるとよい
13		<ul style="list-style-type: none"> ・職業を選択するのは18歳、22歳、60歳とあるが、学生の時までは気づかなかった人が30代初期に気づき、地元に戻って就職したいと考える人もいる ・退職後に活躍できる人、気づいたときに帰ってきたい人など、節目節目で人材を引き戻す戦略が必要 ・企業も、そのような人が帰ってこられる制度をそれぞれが作り、県をあげた支援も必要
14		<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業への就職に保護者が反対するケースも多い ・保護者の影響力は大きく、保護者へのアプローチが大事
15		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもは親と肌を触れ合って育つことが大事 ・企業内に子育てルームなどの体制をつくることを奨励できないか
16	出産・子育て女性の活躍	<ul style="list-style-type: none"> ・社会全体で子育てをするというのはよいが、その内容として各論の議論が必要 ・3人の子どもを育てるには、10年程度かかるが、その間、腰を据えて子育てできる環境を整えることも大事ではないか ・3人目を決断するかどうかは、経済的な理由というより、子育てを楽しめているかどうか ・最低でも、出産後1年間は育児に集中し、育児を楽しんだ後に、ちゃんと復帰できる仕組みが必要ではないか
17		<ul style="list-style-type: none"> ・生まれる前から、夫が支えることにより、男性の意識も変わるのではないか ・妊婦健診のために仕事を休むことができる環境も大事ではないか

No.	項目	発言要旨
18	出産・子育て 女性の活躍	<ul style="list-style-type: none"> ・首が据われれば保育所に子どもを預けられるが、その場合、子どもの愛着形成はどこでできるか ・愛着形成がうまくいかず、脳の形成に影響を与えることも ・預かる側としては、その可能性等についてもちゃんと説明した上で預かる必要があるのではないか
19		<ul style="list-style-type: none"> ・自社では出産後3年間は復帰しないように勤めている ・祖父母との同居世帯が減少し、子育てが大変になってきた状況もある ・祖父母に預けられる環境をつくるため、同居を助けられる政策などができないか
20		<ul style="list-style-type: none"> ・近隣に世話をやいてくれる人はいる ・地域で子育てができるように、呼びかけ、働きかけを考えて欲しい
21	地域共生社会 公共交通・ 交通ネット ワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・都会と地方の差は社会資本への投資の差、地方はまだ社会インフラの整備が遅れている ・物流を整備し、法人税の減免等により企業誘致をしたりしないと、地方は変わらない ・物や人が容易に流れるようなシステムをつくり、かつ豊かな自然や食などの環境があれば、自然と大分は良い地域と言われるようになる
22		<ul style="list-style-type: none"> ・各バス会社がバスを出し合って、東京の山手線のように西・東回りのような運営をやってもらえないか ・バスは都市中心部に偏っている ・地方の高齢者にとって、免許返納は困ること
23		<ul style="list-style-type: none"> ・地域によってバス会社が違うという現状は変わっていないのではないかと ・利便性を高めるため、県としてリードを取った施策ができないか
24		<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドの移動に対応した交通手段となっているか ・需要の確保、採算が問題だが、ニーズを踏まえるのに外国人の活用という視点も重要
25		<ul style="list-style-type: none"> ・自動運転などが将来本格的に実現したときにも、大分県が先進事例としてスムーズにスタートできるような、準備期間の5年間であって欲しい
26	芸術文化 スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子マラソンも車椅子バスケットも大分は発祥地 ・障がい者スポーツの先進県ということを、教育も含め周知して欲しい ・オリパラも捉え、小中学生に大分の良さ、高校では福祉の精神等も含め伝えていくべき

No.	項目	発言要旨
27	芸術文化 スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・価値観を育てることは大事 ・実際に重要文化財を使ったイベントを実施するなど、重要文化財なども、小さい頃に見て、触れて経験してもらうことが大事 ・職人の技術を繋ぐためには、仕事への理解が必要だが、そのためにもその価値を知ってもらいたい
28		<ul style="list-style-type: none"> ・中心部の子ども達は美術館等に行く機会が多いが、田舎の子ども達はなかなか来られない ・遠くから行くにはお金のかかる問題でもあり、そういう機会を、周辺地域の子ども達に与えてくれるようなイベントがあるとよい
29		<ul style="list-style-type: none"> ・芸術もスポーツも、伝えて行くには人材の確保が必要 ・ラグビーの指導者も10年もするといなくなる恐れがある ・定期的に指導者を育成するというサイクルをつくっていくべき
30		<ul style="list-style-type: none"> ・本物に触れるということに大きな意味があり、そのための機会を多くつくって欲しい ・伝統行事が年々廃れており、地域の行事とはいえ、広く人材を集めるということではできないか ・残したいもののために、地域などに固執せず、広く集めるというのも一つの方法ではないか
31		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを通じたまちづくりは郷土愛、生きがいの創出にも繋がるため、引き続き機運醸成を勧めたい ・地元で誇りが持てないというのは歴史的な背景もあるかもしれないが、大友宗麟など、改めて見直すと興味深いものがあり、歴史を通じた地域愛の醸成というのも可能ではないか